

NISSHA 株式会社
「2024 年 12 月期 WEB 決算説明会」
質疑応答の要旨
(2025 年 2 月 13 日開催)

Q1. デバイス事業の 2025 年の業績計画の考え方は。

A1. タブレット向けの需要が 2024 年比で約 100 億円減少する見込み。それに対して、工場集約による固定費削減で利益を確保する考え。

Q2. デバイス事業のタブレット向けについて、今後 3 年先を見たときの需要見通しやシェアの考え方は。

A2. 成熟している製品のため、需要は伸びないと見ている。シェアについてはローエンドモデルのシェアを取りに行くことはしない。手堅く需要を見極めながら、コストコントロールを厳格に行っていく。需要が伸びない中でも、営業利益率 5%以上を目指す。

Q3. メディカルテクノロジー事業の 2025 年計画において、利益率が前期比で向上するのはどのような要因があるのか。

A3. 医療機器 CDMO の需要増加と、買収した Isometric (マイクロ成形) の成長が利益率向上に寄与する。また、効率性の改善や一過性費用のコントロールを通じて、利益率を改善する。

Q4. 産業資材事業の 2025 年の業績計画の考え方は。

A4. 値上げや生産性の改善に加え、高収益である買収企業 Cathtek (医療機器向け射出成形) の業績が通年で寄与する。

Q5. 産業資材事業のモビリティ外装について、2025年Q4から量産開始とあるが、利益への貢献の見通しは。

A5. 2025年は立ち上げにかかる先行投資が必要なため、利益貢献はしない。2026年から量産が本格化し、年後半から利益貢献が始まる見込み。

Q6. 産業資材事業のモビリティ外装の本格化による、加飾モビリティ向けの売上高規模感は。

A6. 第8次中期経営計画では、2026年の加飾モビリティ向け売上高260億円を計画している。

Q7. 2025年の業績計画で、その他の売上高が2024年比で伸びている理由は。

A7. 2025年1月に買収した滋賀県製薬（一般用医薬品（OTC）CDMO）の業績貢献（売上高50億円）を見込んでいる。

Q8. 自己株式取得は実行するのか。

A8. 株主還元については安定配当を基本としている。自己株式の取得については第8次中期経営計画の株主還元額140億円（3年累計）の範囲内で検討していくことになる。